

そんなの関係ねえと言いながら気がつくとお金の心配ばかりしている。

「四〇代のうちから早めにローンを返して、六〇代から安心して暮らす」と思ったり、「今しか過ごせない時間を大切に、ローンはもう少し後回しでもいいか」とも思う。しかし何歳まで生きられるかなんて保証はないし、仕事が一〇年後もある保証もない（裸の芸風だとなおさらだ）。そんな風に考えが右往左往してしまう自分があまり好きではない。

本当は自由に好きなことだけ考えて豪快に過ごしたい。しかしそういう訳にはいかない。自分一人だけならまだしも妻がいてまだまだオムツが必要な子どももいる。思えばお金の心配をしてしまうのは今に始まったことではない。ポウリング場のアルバイトをしている頃も、使用済みスコアシートの裏側にその月の予定収入とその使い道の振り分けを何度も何度も繰り返し書いては頭を抱えていた。

ということはいくらもきつとそうだろう。これを機会に自分側ではなくお金側からも考えてみよう。お金の付き合い方を上手にできれば、不安も少しは軽くなるかもしれない。

ではお金が喜ぶこととはなんだろう。やはり役に立つものに使われることだろ



絵・江口修平

お金となかよし、おっハッピー

小島よしお

う。着られない服、読まれない本、使われない物ほど悲しいものはない。そもそもお金は価値を交換する便利グッズとして誕生している。熟成させて美味しくなるわけでもないし、身にまともても体を温めてはくれない。

きっとお金はいろんな所へ行きたいのだ。誰かの役に立ちたくてウズウズしてに違いない。お金を使わないのはトク番組に呼ばれたのに一言も喋らずに帰るあの日の私と同じではないのか。

使うと言えば買い物や食事や旅行などだ。投資、募金もそうだろう。自分と引き換えに素敵な体験をして笑顔になっている持ち主をみてお金もほっこりしているかもしれない。ただ同じ使うにしても、その力で人を支配したり優越感に浸ったりしてもお金は「そうじゃないもつとハッピーに使ってくれ」と泣いているかもしれない。ギャンブルで身を滅ぼすような使い方も悲しむだろう。

お金が喜んでくれる方法を実践すればきつともっと仲良くなれる。そうすれば年中心配するようなことにならないのではないか。

そんなの関係ねえと叫びながらも、お金の関係性はしっかりと築きたいものだ。はいおっぱっぴー。

こじま・よしお●芸人。2001年より早稲田大学在学中の5人によるコントグループ「WAGE」のメンバーとして活躍後、ピン芸人として活動。抜群の運動神経を持ち合わせ、その芸風やポジティブな人間性から近年では全国の子供たちから絶大な支持を得る。20年、コロナ自粛中の子供たちのために算数を教える動画が話題になり、24年以降は、金融経済教育推進機構（J-FLEC）が主催するイベントにも出演するなど、活動の幅を広げている。

